

学校 教育 目標	生き生き日枝っ子 ・「知」自ら取り組み、学び続ける子どもを育てます。 ・「徳」学校が好き、自分が好き、友達も好きと思える子どもを育てます。 ・「体」自ら健康で安全な生活を送ろうとする子どもを育てます。 ・「公」自分たちのまちを知り、好きになり、共に創っていこうとする子どもを育てます ・「開」様々なものの見方や考え方、感じ方のできる子どもを育てます。				
	学校 概要	創立 112 周年	学校長 加藤 智敏	副校長 山田 太一	2 学期制 一般学級：18 個別支援学級：5 児童生徒数： 642 人 主な関係校： 共進中学校

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	〇〇中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<問題発見・解決能力> <言語能力> <持続可能な社会の創造に貢献する力> <心身ともにたくましく生きる力>	共進中学校 太田小学校 日枝小学校	・学ぶ楽しさを知り、自らの人生をきりひらく子ども ・自他ともに大切にし、思いやりを忘れずに人に接する子ども ・あいさつができ、健やかな心と体をはぐくむ子ども ・よりよい社会の創造に貢献しようとする子ども ・自ら問題を発見し、仲間と協力して取り組み解決する力の育成 ・地域とのかかわりから学びをつくる学習財産の発掘

中期 取組 目標	<ul style="list-style-type: none"> ○子ども一人ひとりの思いに寄り添い、主体的で協働的な学びを充実させます。 ・学習の楽しさを実感し、学びたい、伝えたいという思いを高められるようにします。 ・自ら問題を発見し、仲間と協力して取り組む力を育てます。 ○自他を理解し、多様性を大切にすることができる心を育てます。 ・コミュニケーション能力を高め、一人ひとりが自己有用感をもち、安心して学校生活を送れるようにします。 ○まちや人と自らかかわり、大切にしようとする心を育てます。 ・まちや人と繰り返しかわることで、まちの一員としての自覚をもてるようにします。 ○あきらめず、くり返し挑戦する心や体力づくりを進めます。 ・自分の体への理解を深め、自分に合った生活習慣や運動習慣を考えたり、ねばり強く物事にかかわろうとしたりする意欲を育てます。
----------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

重点取組分野	具体的取組
知 個別に応じた指導 ・授業改善	①教師間で様々な手立てとツールを共有し、実践する中で、誰もが多様な表現方法から自分に合った手段を選び、伝え合える授業環境を整える。②教師が個に応じた合理的配慮を整理し、共有することで、子どもが自ら動いて理解を深めたり、できることを増やしていき、一人一人が手応えを感じる授業を実現する。
徳 人権教育	①誰もが自分らしさを発揮したり、自他を理解し合えたりする機会を通して、安心して学校生活を送れるようにする。②様々な教科で、人(まちの人、友達)との関わりを大切に、日枝のまちの一員であることをより一層自覚する。③様々な環境で育つ児童一人ひとりの道徳観を育てるため教師の研修・研究時間を設定する。
体 健康教育 食育	①体力・食育・健康の観点から児童にアプローチをし、生活習慣の改善を図る。②学校保健委員会を開き、健康に関する意識が高まるようにする。③食べ物に興味をもったり、食べることを楽しんだりできるように給食週間の取り組みや、お話しレストランを継続して行う。
公 開 ESD/SDGs	①月の目標にSDGsを紐づけ、社会について認知する機会を設ける。②教師の共有を進めるアプリケーションの開発及び実践。③図書と食育に関連したお話しレストランでSDGsについて取り上げる。
いじめへの対応	①いじめを早期発見するために、常日頃から児童の様子を見取り、変化があった場合には積極的にアプローチする。②児童に関する情報共有を職員間で密にし、多角的にいじめをとらえられるようにする。③問題が起きた際には、担任だけではなく、学年やブロック、チームで対応できるよう、校内体制を整備する。
人材育成・ 組織運営(働き方)	①生き生き日枝っ子研究会の各部会ごとにリーダーとファシリテーターを立て、キャリアステージに応じ、全員学校運営参画型の学校経営を行うとともに、職務や会議等を編成し直し、子どものための時間を確保する。②メンターチームでは、講師を招請し、自発的に研修計画を立てて運営できるようにする。
特別支援教育	①誰一人取り残さない教育のために、一人ひとりを多面的かつ深く見取ることを通し、個に適した支援を目指す。また、特別支援はグラデーション化していて、誰もが受けられる一般的な支援だという認識を共有する。②子どもがもつ文化や言葉を尊重し、在籍級の学びがより「分かる」ように、一人ひとりにあった言語支援や教科支援を行う。
児童生徒指導	①児童の気持ちに寄り添い、その思いを受け止めながら、児童一人ひとりに合った児童支援を積極的に進める。②児童支援体制の充実を図るため、SSWやスクールカウンセラーなどの専門家、区役所や児童相談所等の他機関と連携したチームアプローチの体制を整備する。
地域活動/協働活動	①生活・総合を中心に、地域と継続してかわかれるようにする。②日枝っ子友の会と連携し、保護者、地域が主体的に子どもにかかわれる場づくりをする。③生き生き日枝っ子研究会を核とした学校運営のもと、学校運営協議会を中心に、学援隊などの組織を再編し、地域との連携を図る。
情報教育/GIGAス クール構 想	①学年に応じた基本的な操作スキルを習得できるようにするために、教職員が系統性を意識して指導する。②受信・発信の両者の立場から情報を正しく扱えるよう、メディアリテラシーの向上を目指す。③①・②を高める、一つの学習道具として、効果的にICTを活用できるようにする。